

頑張った！ 全力で挑んだ市内大会

新型コロナウイルスの感染状況がやや収まりつつあったことから、今年度の市内大会は全ての競技で予定通り実施され、先日、無事に終了しました。

選手として大会に参加した多くは3年生で、負けたら引退となることから、1・2年生の選手とは違う「強い思い」をもって試合に臨んだのではないかと思います。

競技であることから、試合には必ず勝ち負けがつきます。どれだけ頑張っても、相手の実力が上であれば、かなわないことがあるのも当然のことです。しかし、大会前に行われた激励会で、自分は選手の皆さんに「必ず勝ってこい！」という言葉を贈りました。そして、その言葉に続けて、「勝つべき相手は目の前の対戦相手ではなく、自分自身である」という話もしました。はたして、苦しいとき、劣勢の時であっても、弱気になったりあきらめそうになったりする自分や自分たちに打ち克つことはできたでしょうか。

全ての大会会場に足を運ぶことはできませんでしたが、多くの会場で大形中の選手が力の限りを尽くして試合に挑んでいる姿を見ることができました。相手に対してだけでなく、自分自身とも精一杯戦っているその姿に、感動を覚えました。

また、勝って喜ぶ姿とともに、負けて悔し涙を流している選手の姿も目にしました。それだけ、部活動に、そしてその一戦に熱い思いをもって臨んでいた証拠だと思います。悔し涙を流す姿も、また尊い姿です。

県大会に勝ち上がった部や選手は、更なる努力でパフォーマンスを向上させて次の試合に臨むことを期待しています。また、この市内大会で力及ばず敗退し、引退となる3年生も多くいます。ぜひ、後輩である1・2年生に「部活動への思い」というバトンを引き継いでもらいたいと思います。



「生徒心得の見直し」が始まる！

本日の生徒朝会で、生徒の手による生徒心得の見直しについての説明がありました。いよいよスタートです。

三浦生徒会長から、「一部のわがままのためではなく、全校生徒にとって意味のある見直しを自分たちの手で行うことに意味がある」という呼びかけがありました。三浦会長の言葉はまさに「生徒心得の見直し」の本質を突くものでした。

現在、大形中にある生徒心得は、大人の手によってつくられたものです。学校生活の主体者が生徒であることを考えると、これは本来の在り方ではありません。

当然、全てを生徒が自由に決められるわけではありません。しかし、大中学生の覚悟と適切な判断によって、自分たちで決められること、変えられることはたくさんあるはずです。もちろん、この自由は「責任を伴う自由」です。この重みを受け止めながら、自分たちだけでなく、教職員や保護者、地域の方の理解と納得も得られるような、価値のある魂のこもった生徒心得が大中学生の手で創り上げられることを期待しています。



今年度も美術部が素敵なステージ看板をつくってくれました！ 心得の見直しも大中学生にとっての「挑戦」です！

大形中学校 校長室だより
夢・希望・未来

令和4年6月28日

第8号